



〒 242-0007 大和市中心林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: toiawase@edventure.jp URL <https://edventure.jp/>

「わたしたち」の「問題」として、再度考えてみる ～先生は勉強だけを教えていればいい？PART II～

突然ですが、「平和」を授業で扱うことに関する次の質問にお答えください。

皆さんは次のどれにあてはまりますか？複数回答可です。

- 私は
- 「平和」について、授業や様々な場面で積極的に教えるべきと考え、実際教えている。
 - 教科の教材に出てきたときだけ、指導書に沿って教えている。
 - 学年でも積極的に取り扱うムードはなく、積極的にやると自分が周囲から浮いてしまいそうでいやだ。
 - 「平和、平和」っていう人いるけど、正直自分は興味ない。
 - 「平和」について語ったり、考えたりする場所は、学校ではないはずだ。
 - 「平和」をしっかりと取り扱いたいが、どうしたらよいかわからないでいる。

どうでしょうか、どれに印をつけましたか？残念ながら Ed.ベン便りは回収しないので、集計はできません。全体の傾向を見てみたい気持ちはありますが、そこはお互い想像するだけにとどめるしかありません。ただ、文部科学省のような教育行政組織からみれば、二つ目の「教科の教材に出てきたときだけ、指導書に沿って教えている」が正解なのかもしれません。しかし私たち Ed.ベンチャーは、「先生たちは勉強だけを教えていればいいの？平和についても私たちの問題として考えるべきではないの？」という姿勢であることから、最後の答え「『平和』をしっかりと取り扱いたいが、どうしたらよいかわからないでいる」に印をつけた先生方とともに、一緒に考えながら答えを見つけていきたいと思っています。

世界中で現在行われている戦争は、残念ながら、終結する気配がありません。こうした状況を背景に、11月20日の朝日新聞朝刊の9面には、「子どもの命・教育を、紛争が奪う」という記事が掲載されました。そこで紹介されている数字は、改めて目を見張るものでした。この日は、国連によって制定された「世界子どもの日」であることから、紛争地域での子どもたちに目を向けたようです。一部を紹介します。

国連児童基金（ユニセフ）によると、イスラエル軍による大規模攻撃を受けるパレスチナ自治区ガザでは、戦闘が始まった昨年10月以降に少なくとも約1万4千人が死亡した。家を追われた約190万人のうち半数が子どもとみられ、水や食料、医薬品などが行き届いていない。

子どもたちは教育を奪われている。学校が砲撃の標的となり、約95%の学校が一部または完全に破壊された。ユニセフによると、(中略)「年少児にとって、学校に通えないことは認知的、社会的、感情的な発達を脅かす」と警鐘を鳴らした。

イスラエル軍は、隣国レバノンのイスラム教シーア派組織ヒズボラとの戦闘も進めている。9月後半に攻撃を激化させ、10月には地上進行に踏み切った。ユニセフの中東・北アフリカ地域の広報責任者は今月18日、朝日新聞に9月23日以降、200人以上の子どもが死亡したと回答した。

レバノン全土で130万人が国内外に避難し、うち40万人以上は子どもという。(中略)2022年2月からロシアの侵攻を受けるウクライナでも多くの子どもが犠牲になっている。国連人権高等弁務官事務所が10月に発表した報告書によると、少なくとも641人が死亡した。

昨年4月に国軍と準軍事組織「即応支援部隊」(RSF)の軍事衝突が始まったアフリカ北東スーダンでは、子どもたちの命が危険にさらされている。ユニセフによると、500万人の子どもが家を追われている。食料や衣料へのアクセスが限られ、ユニセフは「世界最大の子どもの避難民危機」と訴える。(後略)

これだけ悲惨な状況が報道されても、残念ながらこれがすべてではありません。世界中では、もっともっと多くの子どもたちが命を奪われ、食料を手に入れられないで日々を過ごしているのです。

どうでしょう、こうした現実を、日本の子どもたちにしっかりと伝える責任が、私たちや学校教育にはあるのではないのでしょうか。それは、未来の同時代を生きるであろう、すべての子どもたちの問題であるからこそ、私たちは今伝えていかなければならないのではないのでしょうか。未来の地球で、手を取り合って共に生きる子どもたちだからこそ。

紹介した朝日新聞の記事が掲載された日の1面は、どの新聞も同じでしたが、詩人「谷川俊太郎」さんの死去が報じられていました。谷川俊太郎さんといえば、教科書にもいくつかの詩が載せられています。そのなかでも中学校の国語の教科書に採用されていた「朝のリレー」は彼の代表作の一つです。

朝のリレー

カムチャッカの若者が きりんの夢を見ているとき
メキシコの娘は 朝もやの中でバスを待っている
ニューヨークの少女がほほえみながら寝がえりをうつとき
ローマの少年は 柱頭を染める朝陽にウインクする

この地球では
いつもどこかで朝がはじまっている

ぼくらは朝をリレーするのだ
経度から経度へと
そうしていわば交替で地球を守る（後略）



同時代の地球を守っていく子どもたちに、様々な出来事や事実を、「自分たちの問題」として考えてもらう必要があるのは当然です。しかし子どもたちに伝える前には、私たち大人自身がそれこそ「自分たちの問題」として、様々な出来事を捉えていく必要があります。前回に報告した「若者の増える自殺」などももちろんです。子どもたちがなぜ自殺に向かおうとするのか、大人たちが真剣に向き合わなければ、解決されることはないでしょう。私たち大人こそが、何事も「他人事」にしすぎなのではないのでしょうか。

「平和」に関しても、日本の歴史の「戦争」は教材化しても、現在起こっている戦争は教材化できない。しかしそれで本当に「平和教育」なのでしょう。現在地球上で起こっている様々な事実や出来事に対して、子どもたちが「自分でできること」を探し、実行しようとする態度こそが、「朝をリレー」し、「交替で地球を守る」ことなのではないのでしょうか。そんな子どもたちを応援するのが、大人の役割のように思えるのです。

最初の質問に戻りますが、3番目の答えにあるように、「積極的にやると自分が周囲から浮いてしまう」可能性はどこの職場にもあるでしょうし、下手をすると保護者からのクレームなど、外側からの「様々な意見」が寄せられることもあるかもしれません。確かに状況は大変です。しかし、そうした大変という状況を理由に、様々な事柄を「他人事」にしている「大人の姿」を、実は子どもたちは冷めた目で見ているのではないかと思います。

だからこそ、私たち大人が、教育の現場であればなおさら、「交替で地球を守る」気概を、子どもたちには見せていかなければならないのではないかと思います。

2025年度 教育講演会のお知らせ

平和をどのように守っていくのか、皆さんと一緒に考えたいと思います！

講師 田中美穂さん(※カクワカ広島共同代表)

※核政策を知りたい広島若者有権者の会・・・主に広島に住む、大学生や会社員、カフェ店員たちが、核兵器のない世界の実現を願って行動している。

演題 未定(現在講師と調整中)

日時・場所 2025年2月16日(日) 13:20～ 富士見文化会館

これからのEd.ベンチャーの学習会

●理論学習会@大和市シリウス

学習会 12月14日(土) 13:30～15:30 学校が生まれ変わるために、新たな学びの形を考える

●授業研究会@大和市シリウス

学習会 12月14日(土) 16:00～18:00 インクルーシブな空間としての教室の創造
・教室で起きていることを語る ・インクルーシブの阻害要因を検討する

●インクルーシブな社会を目指す学習会@大和市シリウス

実践報告 12月6日(金) 19:30～21:00 『子どもアドボカシー』学習会を経ての実践

◆理事のひとつ◆ 情報化社会が実現すれば、私たちの生活は一層便利になり、効率的で快適な生活が実現する、という触れ込みだったと思う。今や実際に多くの人がスマホを持ち歩き、いつでもどこでもネットにアクセスし、好きな情報を取得することが可能になった。確かに効率的で便利になったかもしれない。しかし一方で、事の真偽の判断が困難となり、猜疑心にあふれ、誹謗中傷がとめどなく流れ、分断され孤独に苛まれる人々が増えているのではないだろうか。メディア・リテラシーとデジタル・リテラシーの重要性を痛感している。(TH)